

## CT ワーキンググループの活動と成果

(地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 放射線技術科)

柳川 雅夫 上野 至 津川 和夫

### 要 旨

インシデントの再発防止策として、造影剤同意書の様式改訂に着手するためのワーキンググループが2017年8月1日に発足した。多職種による現場担当者から選出された少人数での活動は、回を重ねるうちにCT業務の安全管理や、業務推進への取組も担うこととなり成果を上げた。

(京市病紀 2023; 43: 58-59)

Key words: インシデント, 造影剤

### はじめに

造影剤の使用に不同意な患者に対して、造影剤を誤って投与したインシデントの再発防止策を講ずるためのワーキンググループが2017年8月1日に発足した。これは、インシデント振り返り検討会にて、造影剤同意書の様式が、患者・医療者の双方にとって誤解や見落としを招きやすい内容であることが原因の一つとして挙げられたため、造影剤同意書の様式改訂のみを専門に行うチームとして活動を始めた。日勤帯CT業務担当者から選出された少人数での活動は、回を重ねるうちにCT業務の安全管理や業務推進への取組、他のインシデント対策をも担うこととなり、造影剤同意書様式改訂の達成を始め、業務改善に多くの成果を上げた。

### 研究目的

CT室業務の繁忙帯は長時間に及ぶため、グループ活動の機会設定は簡単ではない。時間外業務として扱うことも難しく、業務時間内に本来業務から離脱して活動することとなったため、相応の成果がなければ継続する必要はない。如何にしてメンバーの負担を抑えるか、如何にして持続可能な活動とするか。効率的かつ効果的な運営が求められた。

最終的には月一回、第四金曜の16時45分から終業までの30分が定例となり、活動は安定化した。コロナ禍による中断などの紆余曲折を経ながらも2022年9月に第30回目のワーキンググループを開催するに至った。これを受け、歩みを振り返り、議事録から議題案件の傾向と対策を分析するとともに、下記3項目の通りに活動成果を検証することとした。

### 方 法

#### #1. グループ活動の検証

ミーティング1回あたりの所要時間・議案数・参加者数の平均を算出した。

#### #2. 造影剤同意書改訂のプロセスに関する検証

インシデント発生から新様式稼働までに要した日数・

ミーティング実施回数を検証した。

#### #3. 議題案件に対する取組と今後の方針

議題を「安全管理」「業務運営」「撮影技術」に分類した。検討内容と終結に至るまでの検討回数を分析した。

### 結 果

#### #1. グループ活動の検証

ミーティングの実施時間平均は37.8分、議案数平均は3.7件、参加者数平均は4.2人であった。

#### #2. 造影剤同意書改訂のプロセスに関する検証

本件を扱ったミーティングは計20回、活動開始から新様式稼働までに2年8ヶ月7日を要した。

#### #3. 議題案件に対する取組と今後の方針

「安全管理」12件、平均2.7回で終結

「業務運営」26件、平均1.6回で終結

「撮影技術」4件、各1回で終結

### 考 察

#### #1. グループ活動の検証

効率的な議事運営のため「月1回30分程度」「議案の事前共有」を掲げている。中には60分に及ぶ会が2回あった。議案数が多いほど、参加者数が多いほど長時間に及ぶ傾向が見られた。

#### #2. 造影剤同意書改訂のプロセスに関する検証

企画立案・関係各部門との調整・委員会診査など、多くの過程の中で最も時間を要したのは、同意書内に検査依頼医名を印刷するシステムの設定であり、課題克服に8ヶ月を要した。また、造影剤同意書をはじめCT検査の関連書類の記載内容が医療技術の変革に対応できておらず、説明・項目不足が明らかであった。これを補うためにCT撮影担当技師をはじめとする関係職員が口頭で確認を行い、結果を追記することが負担になっていた。インシデントに起因した部分だけを修正し応急処置的な様式改定案も出されたが、いずれは根本的な様式改定は避けられないことと、軽微な変更を度重ねると逆にインシデントを誘発するとの指摘もあり、旧様式で業務を継続することとした。

### #3. 議題案件に対する取組と今後の方針

総数 42 件中、造影剤使用に関連する検討が約 61% を占めていた。CT 室運営において造影剤の安全かつ適正な使用が求められていることが示唆された。また、各議題は提案から終結まで迅速に対応できていることが示された。

ボトムアップ型のグループ活動は、メンバーの負担が最小限に留まるよう効率的な運営を実践すれば、業務改善に大きな効果を発揮する。また、本グループ活動での取組や経験が CT 室内に留まらず科内全体へ還元されており、医療安全・質の向上に貢献できているものと考えられる。

## 結 論

本ワーキンググループでの決定事項は放射線科四者会議など然るべき決定機関に諮問し、承認を得られてから業務に反映する形を取っている。

## Abstract

### Activities and Achievements of Computer Tomography Working Group

Masao Yanagawa, Itaru Ueno and Kazuo Tugawa

Department of Radiation Technology, Kyoto City Hospital

In August 1, 2017, as a measure to prevent the occurrence of incidences using computer tomography (CT), a working group was started to revise the informed consent form. Initially the group consisted of a handful of on-site staff from various professions. However, with the increase in the agenda on safety management and performance of CT in later years the size of the working group increased and various achievements were obtained.

(J Kyoto City Hosp 2023; 43:58-59)

Key words: Incident, Contrast agent